

平成28年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について

津山市立津山東中学校

| 教育目標(めざす児童生徒像) | | 今年度の指導の重点 |
|--|--|--|
| <p>笑顔があり元気な学校 ◇教育目標</p> <p>①自ら学び、考え、行動する生徒の育成 ②心身ともに健やかな生徒の育成</p> | <p>◇目指す学校</p> <p>①落ちついた学習環境 ②生徒の夢・目標の達成を支援する学校 ③自他の人権を尊重する学校 ④活力があり、魅力ある学校</p> | <p>◇目指す生徒像</p> <p>①自分の夢を持ってその夢の実現に向けて日々努力する生徒 ②信じ合える友達と互いに磨き合っ成長していく生徒 「切磋琢磨」</p> |
| | | <p>○あいさつ・そうじ・時間を守るの徹底 ○キャリア教育を視野に入れた学校 ○落ち着いた教育環境の創造 ◇校内研究 研究主題 「生徒の学び合いを通して、一人ひとりの学習を保障する授業づくり」</p> |

| 調査結果について(調査結果において明らかになったこと) | |
|---|--|
| <p>【学力状況調査の結果】</p> <p>県 ○4教科とも昨年に比べ正答率が高くなっており、県平均に近づいている。 ○ことわざの問題は県に比べ、正答率が上回っている。 ○言語の知識、理解がある。 ○郷土愛に関する問題は県に比べ正答率が高くなっている。 ○社会では文化、年表、資料の活用などが弱い傾向がある。 ○数学では、整数の四則計算や分数の計算や速さの問題や比や割合の問題が以前に比べ、正答率が上がっている。 ○数学では、例題を活用して問題を解くことが苦手である。 ○理科用語などの理解が十分でない。</p> <p>全国 ○漢字の読み書きは正答率の高い問題が多い。 ○根拠を明確にして説明をするような問題を苦手としている。 ○記述式の問題を苦手としており、文章標記では、決められた分量にまとめることができない生徒の割合が高くなっている。 ○文章量が多い資料を読み取ったり、読み切ることができない生徒が多い。 * 歴史的仮名遣いを直す 本校87.4%(県82.9%) 比例式をつくる 本校59.9%(県50.1%) 漢字を書く 本校91.9%(県88.6%)</p> | <p>【学習状況調査の結果】</p> <p>○学習の目標やまとめを提示している、またはそれをノートに書いている割合は県に比べ、かなり高くなっている。 ○道徳的な考えは県とほぼ同等である。 ○自己肯定感が大変低く、人の役に立とうという意識も低い。 ○落ち着いた雰囲気での授業が行われていない傾向にある。 ○スマホのルールが守られていない、またはルールがない生徒の割合が高い ○テレビ、ビデオ等の時間は昨年より少なくなっている。 ○家で宿題をしている割合は県と比べ高いが、家庭学習の時間は短く、予習や復習をしていてと感じている生徒の割合が低い。 ○授業と生活とのつながりが弱い。 ○テレビ、DVD、インターネット、テレビゲーム等の時間が少ない生徒は県と同程度に正答率が高い。 ○学習のねらいを知り、振り返り、グループ学習をしていると感じている生徒は正答率が高い。 ○学校のきまりを守ろうとしている生徒は上位層に多い。 ○自然の中で遊んでいない、地域行事に参加していない、読書時間が0分、復習をしない生徒は下位層に多い。 ○自分の考えを他の人に説明したり、書いたりするのは難しいと感じている生徒が多い。(トレーニング不足) ○読書の時間は昨年より増えてきているが、県の平均に比べると低い。 ○あいさつをしている割合は昨年は県と同程度だったが、今年は低くなっている。</p> |

| 成果と課題 | 課題に対応した改善方法 |
|--|--|
| <p>成果</p> <p>○分数や比の問題など過去苦手傾向が顕著だったため、特に重点をおいて取組を行ったので例年より正答率が高くなった。 ○学校全体で学習のねらいの提示、振り返りの充実、グループ学習などに取り組んだ結果から、これらができていると感じている生徒が増加した。 ○小中連携としての取り組みやPTAと連携しての取り組みが定着してきたため、テレビやビデオ等の時間が少なくなっている。</p> <p>課題</p> <p>○普段のテレビ、ゲーム、携帯の時間が多い生徒は、家庭学習の時間も少なくなるため、正答率が低い。 ○話し合う活動を通じて自分の考えを他の人に説明したり文章に書いたりすることは難しいと感じており、文章で表現したり、説明したりする問題の正答率が低く、無回答率も高い。 ○漢字の読み書きや四則計算のような基礎的な問題は正答率が上がってきているが、問題文が長い設問や情報が多い設問は問題の意図が読みとれない生徒が多い。</p> | <p>○作文・漢字等、やりきらせる、やりぬくような課題や教材を与えていく。 ○協同(ペアやグループ)学習を取り入れ、話し合い活動などで自分の考えを他の人へ説明したり表現したりする場面を増やしていく。 ○学校生活や行事の中で感想を書いたり、振り返りの機会を設け、「書く」習慣をつけていく。 ○放課後学習を充実させ、基礎学力の定着を図るとともに、学習習慣をつけていく。 ○ミニ学習を充実させ、基礎基本の定着を図る。また、わかる、できる経験を通して、やる気や自己肯定感をもてるようにする。 ○難易度の高い問題を提示、配布し、自主的に取り組める環境をつくる。できたときには、しっかり認めてやり、達成感を感じられるようにする。 ○シラバスを十分に活用し、家庭学習について生徒への啓発を行うとともに、保護者へも協力を求めていく。 ○家庭の協力を得ながら、引き続きノーメディアの取組を行い、スマホ、インターネットの時間を減らせるようにする。 ○全校統一テストを行い、基礎学力の定着を図る。 ○問題データベースを利用して、プリントを用意し、自主的に課題に取り組める環境をつくると同時に教師もサポートしていく。</p> |

| 取組の検証方法及び検証時期(2学期末及び年度末) | 各校の具体的な達成目標(数値目標等) |
|--|--|
| <p>○授業評価シート、振り返りカードを計画的に活用する。(随時) ○生徒及び教員へのアンケートの実施(学期末) ○朝学習(ミニ学習)のテストの実施(学期ごと) ○中2に学力定着状況たしかめテストの実施(2学期) ○校内研究授業の研究協議で検討(学期1回) ○全校統一テストの実施(学期1回)</p> | <p>○家庭学習の時間が1時間以上の生徒の割合を80%以上にする。 ○自分に良いところがあると感じる生徒を70%以上にする。 ○家で学校の授業の復習をしている生徒の割合を県と同程度にする。</p> |